

◆地域に学び地域をおこすー実践活動レポートー
「防災」について留学生考える

「新治市東大」
地域に学び
地域をおこす

ー実践活動レポートー

「防災」について
留学生考える

新潟産業大学は公益財団法人柏崎地域国際化協会と連携し、市民向けの国際理解の促進や市内在住の外国人との交流支援等の事業を行っている。

先日、同協会主催による「多文化防災シンポジウム」が開催された。防災に関する「できる」「できない」が市民から

で開催された。今回のシンポジウムの目的は、市内で生活する外国の方から災害が発生した際に

心配なことをヒアリングし、普段から準備できることを参加者がグループワークを通して考えるというものだ。

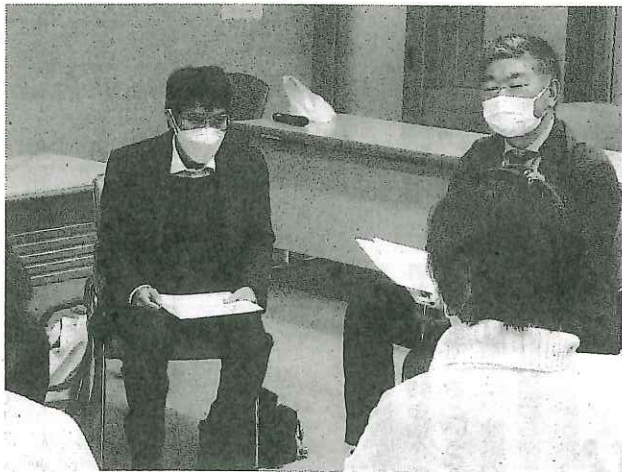
本学からは留学生のムハンマドアブデルカリムモンタナロさん(インドネシア)が参加。母国での災害経験を踏まえ、防災についての意見を述べた。モンタナロさんは

「インドネシアでは、災害が発生した際のマニュアルがなく、どのような避難行動を取ればいいのか分からない人が多い。日本と比較して防災に対する意識が低い国なので、参加して、事前に準備しておくことの大切さを痛感した」と話していた。

同協会の山本睦子事務局長は「留学生はいろいろなところからおいでになっている。地震はあっても、津波の心配はないとか、雪が降らない国なので、冬が心配など、それぞれの立場からの率直な意見を伺っており、それを皆さんに伝えることができた。これからの柏崎全体の防災や多文化

共生につながっていくと「思う」とシンポジウムを振り返った。柏崎市では現在、約800名の外国人が生活を

と地域の方が安心して住めるようなまちづくりを留学生と共に取り組んでいきたい。(同大学地域連携センター)



◆柏崎日報掲載・・・卒業生の活躍

水球アジア頂点を報告 ブルボンKZ 新田選手が市長表敬

水球アジア頂点を報告

ブルボンKZ 新田選手が市長表敬

タイ・バンコクで開催された水球のアジア選手権に、市内のブルボンウォーターポロクラブ柏崎(ブルボンKZ)に所属する新田一景選手(24)が日本代表として出場し、優勝に導いた。

14日、桜井市長に優勝を報告し、「継続して代表に呼ばれるようアピールしたい

きたい」などと今後の抱負を語った。

アジア選手権は先月7〜14日に行われ、日本を含む10カ国が出場した。今回は海外チームに所属する選手以外の若手中心で構成。それでも日本はグループリーグを全勝で圧倒し、決勝は中国を10-7で破っ



た。新田選手は守備の要のセンターバックで全試合に出場し、大会を通して8得点を挙げるなど攻撃でも貢

献した。市役所には新田選手のほか、日本代表コーチを務めた善井翔太さん(36)、審

桜井市長に水球のアジア選手権優勝を報告したブルボンKZの新田一景選手(中央) 14日、市役所

判員として帯同した山崎昇さん(51)もいずれもブルボンKZIIらが訪問。善井さんは「若手中心の中でしっかり結果を残せたことは大きな収穫だった」と話した。桜井市長は「ブルボンKZ、日本代表として活躍いただき感謝している」と今後の活躍に期待した。

新田選手は初めてブル代表に選出された。「各国の体の大きい選手と戦う中で、間合いなど頭を使いながらプレーできた。アジアで一番になったことは自信になった」とし、来年福岡で開催される世界水泳な

どでの代表入りに意欲を見せた。

◆地域に学び地域をおこすー実践活動レポートー
社会・職業へ円滑な移行を

「新潟大学」
地域に学び
地域をおこす
ー実践活動レポートー

社会・職業へ
円滑な移行を

来春本学を卒業し、柏崎刈羽管内の事業所に就職を予定している4年生は14名(去年は7名)おり、うち6名は市外出身者である。地域に活力を与える若手の人材育成と長期雇用はますます欠かせない要素になっている。

働き方改革の推進に伴い、ワークライフバランスが重要なキーワードになる一方、大卒3年以内

実践活動レポート

離職率は31%(令和2年度・厚生労働省調査)を超え、依然高い水準にある。離職理由の中で、「適性が合わない」「人間関係が築けない」は必ず上位にくる理由だ。

本学では毎年4年生を対象に「内定者セミナー」を開催している。今セミナーは、労働法に関する知識や基本的なワークルール、労働者の義務と権利などについて学ぶことで、良好な職場関係の構築と悩みごとを解決する糸口になることを期待し、新潟県社会保険労務

士会が行う出前授業制度を活用して実施している。

講演した高野洋子社会保険労務士事務所(市内駅前)の高野さんは「新たに社会人となる皆さんが自分を守ってくれる労働法や社会保障制度があること、また困ったときは相談できる窓口があることを知っていただけたら幸いです。社会保険労務士として皆様一人一人が生き生きと働き続けることを応援しています」とエールを送る。

セミナーに参加した白井聖也さん(4年・来春から市内卸売業に勤務予定)は、「給与明細の見方や有給休暇などについて曖昧な点が解消された。労働者としての義務を果たした上で、悩みを

相談できる関係を築きたい」と意気込みを語る。少子高齢化と労働人口の減少で「多様な働き方」の実現は容易ではないが、「いきいきと前向きに働く」ことを目指し、

一日でも長く職場で活躍することを期待してやまない。

同大学就職委員長・橋本次郎
(同大学地域連携センター)

